

第1回アジア4Hネットワーク会議2012(韓国)に参加して

山口 朋 美*

I. はじめに

4H活動は1890年代終わりから1900年初頭にかけて、アメリカ各地で始まり、現在、世界70カ国以上で100年以上の歴史を持ち、各国様々な形態で独自の活動を展開している。

4Hとは“Head”“Heart”“Hand”“Health”の頭文字を取ったもので、農村の青少年が地域社会において、交流と親睦をはかりながら、農業技術の振興や衣・食・住などの生活全般にわたる教育を展開し、“To Make the Best Better”(最善をつくそう)“Learning by Doing”(実践を通して学ぼう)をモットーとしている。

日本では、1948年にアメリカの4Hクラブをモデルに作られ、将来の日本の農業を支える20～30代前半の若い農業者が中心となって組織されている。現在は、日本全国に約850クラブ、約1万3千人のクラブ員が活動を行っている。日本でのクラブ綱領は、実践を通じて自ら磨くとともに、互いに力を合わせてよりよい農村、よりよい日本を創るために農業の改良と生活の改善に役立つ腕(Hands)を磨き、科学的に物を考えることのできる頭(Head)の訓練をし、誠実で友情に富む心(Heart)を培い、楽しく暮らし、元気で働くための健康(Health)を増進するという4つの信条を掲げている。

II. 第1回アジア4Hネットワーク会議2012の概要

1. 目的

アジア各国の4H活動に対する理解を深め、各国間のネットワーク形成による連携した活動の強化や、情報共有の場として開催する。

2. 背景

4H活動は、世界70カ国以上で100年以上の歴史を持つ活動であるが、世界を結ぶネットワークはそれほど盛んではない。4H活動のモデルやアイデアを共有することで、若者が直面する飢餓の増加、持続的な生計、食糧安全保障の問題の解決策として大きな役割を果たすと期待されている。

そこで、世界的な4Hネットワークの第一段階として、2011年12月に韓国において、アジア15カ国を招聘しアジア4Hエグゼクティブリーダー会議を開催し、韓国主催で本会議が開催されることが決定した。

本学園は、タイのタマサート大学との交換留学やアジア諸国からの農業青年研修生の受け入れなどを長年にわたり取り組んできた国際活動の経緯から、主催者である韓国4Hクラブ協会より招待された。

3. 会議開催日程及び場所

(1) 開催日程

平成24年8月8日～13日で開催された。会議日程については、表1に示した通りである。

(2) 開催場所

韓国 ムジュ(茂朱)市および全州市、ソウル市内

4. 参加国及び本校からの参加者

(1) 参加国及び参加者数

各国の4Hクラブにおける指導者および青年農業者が参加した。韓国外からの参加国は、以下の15カ国178名。韓国国内の参加者がおよそ5,000名であり、約5,200名が参加した。

1) 参加国()内の数字は参加者数

オーストラリア(3)、コロンビア(7)、中国(12)、インド(10)、インドネシア(29)、日本

*鯉淵学園農業栄養専門学校 食農環境科 有機農業コース

表 1. 会議日程

Time	1st day	2nd day	3rd day	4th day	5th day	6th day			
7:00	Incheon Airport →Muju Resort (Meeting at the Airport)	Good morning		Good morning		Good morning			
8:00		Breakfast		Breakfast		Breakfast			
9:00		Orientation for International Participants		Course Program	Conference session 3,4	re- presentation	Conference session 5		
10:00		Arrange Display	Asia 4-H Country Representative Meeting					Project Contest Closing Ceremony	Korean tradition Experience
11:00									
12:00		Lunch		Lunch		Lunch	Lunch		
13:00		Registration (foreign participants)	Registration (Korean participants)	Conference Session 1,2	4-H Policy Seminar		Foreign Participants experience Korean traditional house 'Hanok'		
14:00	4-H Policy Seminar								
15:00	Arranging Displays (Korean)		Harmonize Rally						
16:00	Project Contest Opening Ceremony		Clover Festival						
17:00	Dinner								
18:00	The Night of Asia 4-H Leader Friendship				Introducing countries	Talent Contest		farewell dinner (Korea 4-H Center)	
19:00			Staff Meeting	Moving to Olympic Parktel					
20:00	Sleeping	Sleeping			Home-stay	Preparation for departure			
21:00		Sleeping		Home-stay			Preparation for departure		
22:00	Sleeping		Home-stay		Preparation for departure	Departure			

(6), モンゴル (10), フィリピン (31), 台湾 (29), タイ王国 (32), ベトナム (4), アメリカ合衆国 (2), フィンランド (1), カナダ (1), スイス (1)

2) 本校からの学生参加者

食農環境科の1, 2年生から4名が本会議に参加した。参加学生は以下の通りである。

- 菅野 健司 食農環境科 アグリビジネス
コース 就農専攻2年
- 福濱由美子 食農環境科 JAコース1年
- 今 彰久 食農環境科 アグリビジネス

コース 畜産加工専攻1年
小水 直人 食農環境科 アグリビジネス
コース 就農専攻1年

Ⅲ. 第1回アジア4Hネットワーク会議2012の会議に参加して

本会議は、アジア各国の4H活動への理解を深めることで各国の連携を強めることを目的としている。会議中、Leader(教育者等)とYouth(農業青年, 学生)に分かれ活動した。

Leader は各国の4H 活動内容を理解して、どのように連携を取って行くか、また本会議のあり方についての話し合いを主に行い、Youth はゲームや各国の文化紹介などアトラクションを通して交流を深めた。

開催期間中に参加した会議およびイベントについて報告する。

1. 第1 回代表者会議（8 月9 日 9:30 ～ Asia 4-H Country Representative Meeting）

第1 回代表者会議では、本会議の名称、規約、理事国、次回開催国などについて議論した。

2. 第1,2 分科会（8 月9 日 13:00 ～ Session 1,2）

参加国を4H 活動非活性国と活性国の2つのグループ（表2）に分け分科会が行われた。日本は非活性国に分類され、第1 分科会に参加した。

第1 分科会では、「4H 活動と社会の経営発展」をテーマとし、4 H 活動の基本理念、韓国での4 H 活動についての紹介。

第2 分科会は、「4H メンバーの指導力向上を目指して」をテーマとし、4 H 活動のさらなる発展のための取組みや連携について協議した。

3. 各国青年による文化紹介（8 月9 日 19:00 ～ Introducing countries, Talent Contest）

参加国の青年による国での4 H 活動や伝統文化についてパワーポイントを使用して発表があった。本校からの参加学生4 名がそれぞれ、自己紹介、日本の農業について、また、本学園の取組みや実習風景、東日本大震災について英語でスピーチを行った。また、伝統芸能の紹介として、参加各国の学生が伝統的な衣装を着用しダンスや歌を披露した。本学生は、沖縄県で伝統的な踊りである「エイサー（ミルクムナリ）」を披露した。

4. 第3 分科会（8 月10 日 9:00 ～ Session3）

テーマ：国際4H ネットワークのための国際協力

(1) 国際4H 協議会（アメリカ合衆国）の代表による序説

アメリカ合衆国での4H 活動では、青年達が世界的な食糧安全保障、水保全、持続的なエネルギー供給、幼児肥満症、食品の安全性などの世界で最も大きな問題に取り組んでいる。世界規模で4H 活動を通して、各国が直面している問題点を相互に理解し持続的で革新的なグローバル4H ネットワークを構築することが目的である。

また、依然として深刻な貧困問題に直面しているサブサハラアフリカ（サハラ砂漠より以南のアフリカ）地域については、4H アフリカの活動の中枢をガーナ、タンザニア、ケニアに置き4H 活動の教育の輪を広げて行くことでサブサハラアフリカに住む250,000 人の若者に持続可能な暮らしに必要なとされる知識と知恵を身につけさせることができると期待している。

(2) 各国の報告

インドネシア、日本、韓国、台湾、タイ王国、ベトナムの6 ヶ国が報告した。

筆者が「日本の国際研修交流について」と題し、日本の農業が直面している、農業従事者の高齢化及び人材不足、食糧自給率の低下などの問題や国際研修の取組について、公益財団法人国際研修協力機構（JITCO：Japan International Training Cooperation Organization）が行っている外国人技能実習制度および研修制度、及び公益社団法人国際農業者交流協会（JAEC：Japan Agriculture Exchange Council）が行っている海外からの受け入れ事業および海外研修事業及び海外への研修派遣制度について。また、本学園でのタマサート大学との交換留学制度やアセアン研修、中米カリブ研修などの国際活動について紹介した。

5. 第4 分科会（8 月10 日 9:00 ～ Session4）

テーマ：各国の4H 活動の事例

表2. 4 H 活動非活性国と活性国

第1 分科会 (Session 1)	4H 活動非活性国 (Non-Active)	オーストラリア、中国、インド、インドネシア、日本、モンゴル、スイス、ベトナム
第2 分科会 (Session 2)	4H 活動活性国 (Active)	カンボジア、フィンランド、フィリピン、台湾、タイ王国、アメリカ合衆国、韓国

4H活動の事例紹介として、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、モンゴル、台湾、タイ王国、フィリピン、ベトナムの11カ国の農業の現状と農村の青年教育についての活動について報告した。

前学園長である井上隆弘氏が「日本の4H活動について」と題して、日本の4Hクラブ（全国農業青年クラブ連絡協議会）の発足から現在までの歩みや現在の活動（プロジェクト発表会等）について紹介した。

6. 国際4H戦略会議（8月10日 13:00～ The International 4-H policy Seminar）

テーマ：持続的農業発展のための青年農業者の重要性

韓国、台湾、日本の3カ国が事例発表を行った。

日本の事例発表としては、日本の農業の歴史的背景や担い手不足などの問題点について、また、その打開策としてH24年度から開始した新規就農総合支援事業について説明した。

新規就農総合支援事業とは、青年（45歳未満）の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、就農前の研修期間（2年以内）及び経営が不安定な就農直後（5年以内）の所得を確保する給付金を交付し青年の新規就農者を確保する政策である。

7. 各国の農業青年活動紹介および交流会（8月10日 15:30～ Harmony Festival, Clover Festival）

参加各国の学生が国内での活動の写真や民芸品の展示を屋外テントで実施。（写真1）

本校は、日常の実習風景の写真や学内で収穫した野菜（カボチャ、ナス、ゴーヤ等）、日本各県

の特産物の紹介や折り紙、緑茶、カップヌードル等の展示を行った。展示会場が韓国内の農業青年のキャンプ会場（参加者約5,000人）であったこともあり、多くの参加者が展示ブースに立ち寄り、展示品の説明を通して、交流を深めることができた。

クローバーフェスティバルでは、韓国の伝統的な演舞やフィリピン、タイ王国等の青年によるダンス披露があった。（写真2）

8. 第5分科会（8月11日 9:00～ Session 5）

全体会議として、本会議に参加したLeaderが集まり、第1回代表者会議での決定事項についての報告があった。また、最後に各国代表による、会議の感想および4H活動のさらなる発展のための今後の抱負についてスピーチがあった。

9. 韓国伝統民芸の鑑賞およびホームステイ（8月11日）

朝鮮王朝発祥の地であり、1200年以上もの歴史のあるチョンジュ（全州）市に移動し、韓国の伝統家屋の集落である全州韓屋村（チャンジュハノッマウル）で韓国の伝統食の試食や伝統的な歌劇を鑑賞した。

10. 農村視察（8月12日 9:00～ 11:00）

ホームステイ2日目の午前中が自由時間となったため、全州韓屋村の観光及び周辺を散策した。

日用品、家電店や青果物等を取り扱う南部マーケットを見学した。リンゴやブドウなどの果物やニンニク、トウガラシ、タマネギ、高麗人参、豆類を取り扱っているお店が多かった。また、野菜



写真. 1 参加学生と展示の様子



写真. 2 アジア各国の農業青年との交流

の箱に「身土不二」と書かれているものが多く見られた。韓国では、「身土不二」という言葉をスローガンに掲げた国産・地場産品の積極的な購入と利用を呼びかける運動を展開しているようだ。

11. 閉会式（8月12日18:30～21:00）

ソウル市内の韓国4Hセンターに移動し、総会及び閉会式を行った。今回の会議の総括や記念品の授与等を行った。

IV. まとめ

4Hクラブ活動は青少年の教育団体であり、青少年の持続的で健全な生活の確保という点に重きを置き、自分で考え、行動することのできる人材の育成を目的としている。

日本の4Hクラブ（農業青年クラブ）は20～30代前半の若い農業者が中心となって、農業経営上の課題についての解決策や技術の検討を主な活動としているが、4Hクラブ活動が盛んな韓国、タイ王国、フィリピン等では、幼少期から4H独自の教育を受け、農業技術の振興をはじめとし、衣・食・住など

の生活全般に関わる教育を通して地域活動へ貢献している。幼少期から教育を受けることで、暮らしや地域を守る自覚が芽生えること、また同世代の仲間がいるという意識が活動の強みになっていると感じた。

青少年の時期に受ける将来の生き方（職業）について考える教育や地域活動の重要性を感じた。日本の4H活動における幼少期教育の導入については、簡単にできることではないが、例えば、4Hクラブと農業高校や農業大学校が連携することで、多くの人へ農業の魅力を伝える機会や農業青年達との交流の場を増やすことができ、農業の担い手確保に繋がるのではないかと感じた。

今回の会議では、アジア各国の農業の実態や青少年教育また文化について知ることができ、内容の濃い会議であり、アジアでの連携強化に繋がると感じた。また、本会議を通して、日本の農業の歴史的背景や現在抱えている担い手不足や食料自給率低下などの問題について、また、日本の4Hクラブ（農業青年クラブ）の活動内容について学び、考える良い機会となった。